

男子駅伝部

箱根 出場 決めた 連続9年



城西アスリートが「スポーツの秋」を彩った。第88回箱根駅伝予選会で男子駅伝部は苦しみながらも本戦への出場を確保した。9年連続の快挙である。女子駅伝部は、第17回関東大学女子駅伝で優勝。姉妹校の城西国際大学は、硬式野球部が千葉県大学野球秋季リーグで初優勝を果たした。「スポーツの城西」は、実りの秋を迎えている。



▲副主将の橋本



▲健闘した1年の横田



▲勢いのある平田



▲本大会出場を決め、報告会であいさつする主将・田村

- 2面 箱根7番目の意味は「スポーツ太極拳」陸上競技部／硬式野球部
- 3面 女子ソフト部全日本ベスト8／弓道部／ゴルフ部／サッカー部
- 4面 女子駅伝部 関東大学女子駅伝で優勝／J-U硬式野球部

城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生
発行所 〒335-0029 埼玉県坂戸市けやき台1-1 城西大学

予選会7位

10月15日、東京都立川市で第88回箱根駅伝予選会が行われた。今年の箱根駅伝で、大会史上最少の3秒差で11位となりシード権を逃した男子駅伝部は、2年ぶりに予選会で第88回箱根駅伝予選会が行われた。今年の箱根駅伝で、大会史上最少の3秒差で11位となりシード権を逃した男子駅伝部は、2年ぶりに予選会

結果	順位	タイム
橋本隆光 (経営4)	21位	1時間00分52秒
平田啓介 (経営2)	47位	1時間01分11秒
山口浩勢 (経営2)	66位	1時間01分33秒
玉澤悠輝 (経済4)	70位	1時間01分37秒
磯山貴大 (経営4)	75位	1時間01分41秒
吉元真司 (経営3)	86位	1時間01分47秒
石橋佑一 (経営3)	87位	1時間01分48秒
田村優典 (経営4)	89位	1時間01分49秒
横田良輔 (経営1)	99位	1時間01分57秒
国実大夢 (経営3)	128位	1時間02分25秒
熊谷駿介 (経営1)	161位	1時間02分59秒
岡部省吾 (経営4)	197位	1時間03分38秒

レースタイム	順位
10時間16分40秒	8位
10時間13分55秒	7位

- ### 順位
- ①上武大学
 - ②山梨学院大学
 - ③国士舘大学
 - ④東京農業大学
 - ⑤神奈川大学
 - ⑥帝京大学
 - ⑦城西大学
 - ⑧中央学院大学
 - ⑨順天堂大学

△本大会に出場が決まっているシード校▽(10校)
早稲田大学▽東洋大学▽駒澤大学▽東海大学▽明治大学▽中央大学▽拓殖大学▽日本体育大学▽青山学院大学▽國學院大学

榎部静一監督の話
順位は期待通りではなかったが、「箱根出場」という最低限のことは果たした。今年、シード権を逃した悔しさは、メンバー全員が共通した思いだ。これからチーム一丸となって課題の点を強化していきたい。1年生が力をつけていくことを願っている。

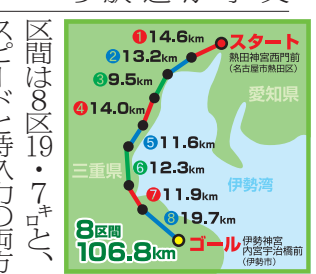
第43回全日本大学駅伝出場

伊勢路に城西旋風を

11月6日(日)、秩父宮賜杯第43回全日本大学駅伝(名古屋伊勢)が行われる。関東地区予選を3位で通過した男子駅伝部は2年連続4回目の出場となる。

この大会は出雲駅伝、箱根駅伝と並び大学3大駅伝の一つ。熱田神宮宮内庁神宮までの8区間106.8kmで、最長区間19.7km、スピードと持久力の両方を求められる。見どころは有力選手が集まる2区と大逆転のある最長の8区アンカーだ。

主将の田村は「昨年は



- ### エントリーメンバー
- | 選手名 | 所属 |
|------|----------------|
| 磯山貴大 | (経営4、鹿島学園・茨城) |
| 田村優典 | (経営4、青森山田高・青森) |
| 橋本隆光 | (経営4、仙台育英高・宮城) |
| 山本隆司 | (経営4、防府西高・山口) |
| 石橋佑一 | (経営3、出雲工高・島根) |
| 吉元真司 | (経営3、樟南高・鹿児島) |
| 平田啓介 | (経営2、八女工高・福岡) |
| 山口浩勢 | (経営2、惟信高・愛知) |
| 加瀬茂樹 | (経営1、田村高・福島) |
| 杵島凌太 | (経営1、大牟田高・福岡) |
| 松村元輝 | (経営1、西京高・山口) |
| 村山航太 | (経営1、明成高・宮城) |
| 横田良輔 | (経営1、利府高・宮城) |
- () カッコ内は学部学年、出身校

この結果について橋本は「直前に故障者が続出したのもあるが、チーム全体として他の大学と比べ闘争心が足りなかった。全日本駅伝や箱根で期待したい。【千葉史典】」

田村優典主将の話
今年の箱根駅伝では3秒差でシード権を逃した。レースは最後まで分からないう、ということを感じた。部員全員が「1秒の重さ」をいまもかみしめている。きょうの7番目になったという悔しさ、3秒差の悔しさをバネにして本大会で頑張りたい。

【千葉史典】

関東2部残留に向けて サッカ一部



サッカー部は、関東リーグ2部に残留できるかどうか注目が集まる。チームも今年目標に掲げており、残留をバネに「2部以上」を目指している。城西は006年にも部リーグに昇格したが、残留できなかった。目標が達成されれば、初の快挙なる。リーグ全節のうち第14節が終了した時点で、成績は、12チーム中11位。下位2チームが各都道府県リーグに降格してしまう条件下で、決して不利な状況ではない。しかし、第11節の日本体育大学戦を2対0で勝利している。日本体育大学は、黒星がなく、首位を走っている。城西は、それに合わせて出場できない選手は、一段の活躍を期待している。その団結力がチームを強くし、選手一人一人のモチベーションの向上にもつながる。

今後の試合予定

- 11月2日 対 東洋大 13:50 法政大グラウンド
- 11月6日 対 朝鮮大 11:30 日体大グラウンド
- 11月13日 対 拓殖大 13:50 朝鮮大グラウンド
- 11月19日 対 日本大 11:30 駒沢公園補助競技場
- 11月27日 対 桐蔭横浜大 13:50 朝鮮大グラウンド
- 12月3日 対 國學院大 11:30 日体大グラウンド

顧問:草野素雄(副学長)
 ▼部長:前田圭(経営3)
 ▼副部長:笠原瑞城(経営2) ▼副部長 大橋優(経営1)
 ▼部員(10人):鶴田大智(経営3)、山田太平(経営2)、速藤恒彦(同)、竹田聡太(薬学2)、内田佳吾(経営1)、島田篤志(同)、桜井達雅(同)

舎本 初のベスト8



女子ソフトボールド部は、8月に山口県下関市で開催された第46回全日本大学女子ソフトボールド選手権大会で、初のベスト8入賞を果たした。シード権を持つため、2回戦からの出場。相手は日本文理大学で、序盤から攻めの姿勢で確実に点数を取り、6対2と圧勝。安定したチームプレーが立派だった。3回戦は鈴鹿国際大学に初回いきなり1点を取られ、チームの雰囲気は乱れた。チームの雰囲気は乱れたが、反撃するにもあと一本のヒットがなかなか出ない。逆転の場面もあったが、結局0対1で負け。惜しい試合だった。しかし総合ベスト8入賞を果たし、優勝に近づいた。

成績を残せるように、目標を掲げて取り組みたい」と話した。

9月に4年生が引退し、3年生新チームとなった。主将は、1年の時からレギュラーに選ばれている高橋裕太(経営3)。副主将は比嘉智美(経営3)だ。新チームになってからの部内状況、これからはそれぞれ話と実感した。また、副主将たちが抜けてしまったのは、将になって、周りの人からまだチーム全体がまとまっていないところもあるが、キャプテンになったと話す。3年生を支えていく姿勢が感じられ、一段の活躍を期待している。【森徳裕、王玉瑠】

成績を残せるように、目標を掲げて取り組みたい」と話した。

9月に4年生が引退し、3年生新チームとなった。主将は、1年の時からレギュラーに選ばれている高橋裕太(経営3)。副主将は比嘉智美(経営3)だ。新チームになってからの部内状況、これからはそれぞれ話と実感した。また、副主将たちが抜けてしまったのは、将になって、周りの人からまだチーム全体がまとまっていないところもあるが、キャプテンになったと話す。3年生を支えていく姿勢が感じられ、一段の活躍を期待している。【森徳裕、王玉瑠】

女子ソフトボールド部には韓国留学生が3人いる。今年の春に順天大学に入学したと同時に女子ソフトボールド部にも所属し、先輩たちと一緒に練習に励んでいる。3人も韓国・順天江南女子高出身で、キムパスで見かけたら、応援の声をかけてほしい。

李慧雲(イ・ヨン) まだ力不足ですが、レギュラーに入り、優勝したいです。

宋允雅(ソン・ユン) 新チームになってからチーム全体で足りないところがありますが、すぐにリカバーしていきたいので、少しずつまとまって頑張ります。

朴乾珠(パク・クンジュ) 試合に出る出ない以前に、城西で練習に励み、しっかりと技術を身につけてほしいです。

女子ソフトボールド部 初のベスト8

成績を残せるように、目標を掲げて取り組みたい」と話した。

9月に4年生が引退し、3年生新チームとなった。主将は、1年の時からレギュラーに選ばれている高橋裕太(経営3)。副主将は比嘉智美(経営3)だ。新チームになってからの部内状況、これからはそれぞれ話と実感した。また、副主将たちが抜けてしまったのは、将になって、周りの人からまだチーム全体がまとまっていないところもあるが、キャプテンになったと話す。3年生を支えていく姿勢が感じられ、一段の活躍を期待している。【森徳裕、王玉瑠】

女子ソフトボールド部には韓国留学生が3人いる。今年の春に順天大学に入学したと同時に女子ソフトボールド部にも所属し、先輩たちと一緒に練習に励んでいる。3人も韓国・順天江南女子高出身で、キムパスで見かけたら、応援の声をかけてほしい。

李慧雲(イ・ヨン) まだ力不足ですが、レギュラーに入り、優勝したいです。

宋允雅(ソン・ユン) 新チームになってからチーム全体で足りないところがありますが、すぐにリカバーしていきたいので、少しずつまとまって頑張ります。

朴乾珠(パク・クンジュ) 試合に出る出ない以前に、城西で練習に励み、しっかりと技術を身につけてほしいです。

陸上競技 男女駅伝部



日本学生陸上競技個人選手権大会が6月、平塚市総合公園平塚競技場で開かれた。男子百メートルは矢野祥伍(経営4)が予選を順調に通過し、決勝で3位入賞を果たした。決勝のタイムは10秒48。続いて7月には、第8回サマー・ゲームズが代々木公園陸上競技場で開催され、四百メートルで2位入賞。タイムは39秒74で、昨年度日本選手権で7位相当の記録である。出場した選手は鈴木一磨(経営4)、矢野祥伍、本間圭祐(経営1)、本場(経営3)だ。【福田香里】

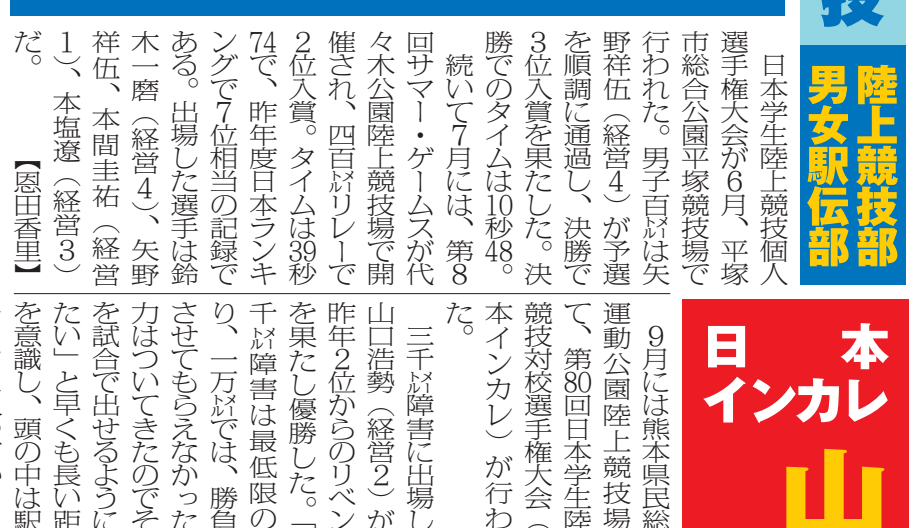
陸上競技部は、関東リーグ2部に残留できるかどうか注目が集まる。チームも今年目標に掲げており、残留をバネに「2部以上」を目指している。城西は006年にも部リーグに昇格したが、残留できなかった。目標が達成されれば、初の快挙なる。リーグ全節のうち第14節が終了した時点で、成績は、12チーム中11位。下位2チームが各都道府県リーグに降格してしまう条件下で、決して不利な状況ではない。しかし、第11節の日本体育大学戦を2対0で勝利している。日本体育大学は、黒星がなく、首位を走っている。城西は、それに合わせて出場できない選手は、一段の活躍を期待している。その団結力がチームを強くし、選手一人一人のモチベーションの向上にもつながる。

今後の試合予定

- 11月2日 対 東洋大 13:50 法政大グラウンド
- 11月6日 対 朝鮮大 11:30 日体大グラウンド
- 11月13日 対 拓殖大 13:50 朝鮮大グラウンド
- 11月19日 対 日本大 11:30 駒沢公園補助競技場
- 11月27日 対 桐蔭横浜大 13:50 朝鮮大グラウンド
- 12月3日 対 國學院大 11:30 日体大グラウンド

顧問:草野素雄(副学長)
 ▼部長:前田圭(経営3)
 ▼副部長:笠原瑞城(経営2) ▼副部長 大橋優(経営1)
 ▼部員(10人):鶴田大智(経営3)、山田太平(経営2)、速藤恒彦(同)、竹田聡太(薬学2)、内田佳吾(経営1)、島田篤志(同)、桜井達雅(同)

サマー・ゲームズ 四百メートルリレー2位 日本学生陸上個人百メートル矢野3位入賞



日本学生陸上競技個人選手権大会が6月、平塚市総合公園平塚競技場で開かれた。男子百メートルは矢野祥伍(経営4)が予選を順調に通過し、決勝で3位入賞を果たした。決勝のタイムは10秒48。続いて7月には、第8回サマー・ゲームズが代々木公園陸上競技場で開催され、四百メートルで2位入賞。タイムは39秒74で、昨年度日本選手権で7位相当の記録である。出場した選手は鈴木一磨(経営4)、矢野祥伍、本間圭祐(経営1)、本場(経営3)だ。【福田香里】

陸上競技部は、関東リーグ2部に残留できるかどうか注目が集まる。チームも今年目標に掲げており、残留をバネに「2部以上」を目指している。城西は006年にも部リーグに昇格したが、残留できなかった。目標が達成されれば、初の快挙なる。リーグ全節のうち第14節が終了した時点で、成績は、12チーム中11位。下位2チームが各都道府県リーグに降格してしまう条件下で、決して不利な状況ではない。しかし、第11節の日本体育大学戦を2対0で勝利している。日本体育大学は、黒星がなく、首位を走っている。城西は、それに合わせて出場できない選手は、一段の活躍を期待している。その団結力がチームを強くし、選手一人一人のモチベーションの向上にもつながる。

今後の試合予定

- 11月2日 対 東洋大 13:50 法政大グラウンド
- 11月6日 対 朝鮮大 11:30 日体大グラウンド
- 11月13日 対 拓殖大 13:50 朝鮮大グラウンド
- 11月19日 対 日本大 11:30 駒沢公園補助競技場
- 11月27日 対 桐蔭横浜大 13:50 朝鮮大グラウンド
- 12月3日 対 國學院大 11:30 日体大グラウンド

顧問:草野素雄(副学長)
 ▼部長:前田圭(経営3)
 ▼副部長:笠原瑞城(経営2) ▼副部長 大橋優(経営1)
 ▼部員(10人):鶴田大智(経営3)、山田太平(経営2)、速藤恒彦(同)、竹田聡太(薬学2)、内田佳吾(経営1)、島田篤志(同)、桜井達雅(同)

予選突破7番目の意味は



城西大学は、関東インカレポイント(アドバンテージタイム)を併用した最後の3枠の中に食い込み本戦出場を果たした。インカレポイントを加味した最終総合タイムでは、上位7位だったが、実際のレースタイムでは、8位だった。レースは40大学、466人が出場したが、城西各選手の個人順位をみると、21位、47位、66位、70位、75位、86位、87位、89位、99位、128位。この10人がレースタイム換算対象の選手だ。残り2人は、161位、197位。グラフは、各チーム上位10選手について分析したものだ。グラフの見方を説明すると、横軸の「1」は、山梨学院大学でもっともタイムが良かった選手を示し、縦軸は、城西大学を含め他校のそれぞれの1位選手と山梨学院大の選手とのタイム差を表している。「2」は上武メンバー内の2位の選手と他校2位選手とのタイム差を示す。これを分析すると、城西はレースとしては、12人のうちのタイム上位6人が、同じ順位の他校ランナーに比べて遅く、これが8位の要因となった、といえる。つまり城西は「チーム内で強い選手が期待通りのタイムを稼げなかった」構図が、顕著に出ている。その一方で、7~10位の選手が健闘したのが光る。その合計タイムは全体で4位に当たり、順位を挽回した格好になった。上位の上武大、国士舘大は、上位1~5位の選手のタイムが速かったのが好成績につながった。こんなデータも浮かび上がる。予選における20m×10人の合計タイムを調べると、1位の上武大と8位の城西大学との差は約4分。今年の箱根駅伝の最終区間10区における1位選手と20位選手の区間タイム差は5分23秒。つまり予選会の1~8位分のタイム差は本番のレースでは、選手の調子次第で1区間だけでもひっくり返る可能性があるわけだ。城西ランナーの潜在力を考えれば、正月の箱根駅伝での上位進出は期待できる。データはそれを教えている。

城西大学は、関東インカレポイント(アドバンテージタイム)を併用した最後の3枠の中に食い込み本戦出場を果たした。インカレポイントを加味した最終総合タイムでは、上位7位だったが、実際のレースタイムでは、8位だった。レースは40大学、466人が出場したが、城西各選手の個人順位をみると、21位、47位、66位、70位、75位、86位、87位、89位、99位、128位。この10人がレースタイム換算対象の選手だ。残り2人は、161位、197位。グラフは、各チーム上位10選手について分析したものだ。グラフの見方を説明すると、横軸の「1」は、山梨学院大学でもっともタイムが良かった選手を示し、縦軸は、城西大学を含め他校のそれぞれの1位選手と山梨学院大の選手とのタイム差を表している。「2」は上武メンバー内の2位の選手と他校2位選手とのタイム差を示す。これを分析すると、城西はレースとしては、12人のうちのタイム上位6人が、同じ順位の他校ランナーに比べて遅く、これが8位の要因となった、といえる。つまり城西は「チーム内で強い選手が期待通りのタイムを稼げなかった」構図が、顕著に出ている。その一方で、7~10位の選手が健闘したのが光る。その合計タイムは全体で4位に当たり、順位を挽回した格好になった。上位の上武大、国士舘大は、上位1~5位の選手のタイムが速かったのが好成績につながった。こんなデータも浮かび上がる。予選における20m×10人の合計タイムを調べると、1位の上武大と8位の城西大学との差は約4分。今年の箱根駅伝の最終区間10区における1位選手と20位選手の区間タイム差は5分23秒。つまり予選会の1~8位分のタイム差は本番のレースでは、選手の調子次第で1区間だけでもひっくり返る可能性があるわけだ。城西ランナーの潜在力を考えれば、正月の箱根駅伝での上位進出は期待できる。データはそれを教えている。

城西大学は、関東インカレポイント(アドバンテージタイム)を併用した最後の3枠の中に食い込み本戦出場を果たした。インカレポイントを加味した最終総合タイムでは、上位7位だったが、実際のレースタイムでは、8位だった。レースは40大学、466人が出場したが、城西各選手の個人順位をみると、21位、47位、66位、70位、75位、86位、87位、89位、99位、128位。この10人がレースタイム換算対象の選手だ。残り2人は、161位、197位。グラフは、各チーム上位10選手について分析したものだ。グラフの見方を説明すると、横軸の「1」は、山梨学院大学でもっともタイムが良かった選手を示し、縦軸は、城西大学を含め他校のそれぞれの1位選手と山梨学院大の選手とのタイム差を表している。「2」は上武メンバー内の2位の選手と他校2位選手とのタイム差を示す。これを分析すると、城西はレースとしては、12人のうちのタイム上位6人が、同じ順位の他校ランナーに比べて遅く、これが8位の要因となった、といえる。つまり城西は「チーム内で強い選手が期待通りのタイムを稼げなかった」構図が、顕著に出ている。その一方で、7~10位の選手が健闘したのが光る。その合計タイムは全体で4位に当たり、順位を挽回した格好になった。上位の上武大、国士舘大は、上位1~5位の選手のタイムが速かったのが好成績につながった。こんなデータも浮かび上がる。予選における20m×10人の合計タイムを調べると、1位の上武大と8位の城西大学との差は約4分。今年の箱根駅伝の最終区間10区における1位選手と20位選手の区間タイム差は5分23秒。つまり予選会の1~8位分のタイム差は本番のレースでは、選手の調子次第で1区間だけでもひっくり返る可能性があるわけだ。城西ランナーの潜在力を考えれば、正月の箱根駅伝での上位進出は期待できる。データはそれを教えている。

城西大学は、関東インカレポイント(アドバンテージタイム)を併用した最後の3枠の中に食い込み本戦出場を果たした。インカレポイントを加味した最終総合タイムでは、上位7位だったが、実際のレースタイムでは、8位だった。レースは40大学、466人が出場したが、城西各選手の個人順位をみると、21位、47位、66位、70位、75位、86位、87位、89位、99位、128位。この10人がレースタイム換算対象の選手だ。残り2人は、161位、197位。グラフは、各チーム上位10選手について分析したものだ。グラフの見方を説明すると、横軸の「1」は、山梨学院大学でもっともタイムが良かった選手を示し、縦軸は、城西大学を含め他校のそれぞれの1位選手と山梨学院大の選手とのタイム差を表している。「2」は上武メンバー内の2位の選手と他校2位選手とのタイム差を示す。これを分析すると、城西はレースとしては、12人のうちのタイム上位6人が、同じ順位の他校ランナーに比べて遅く、これが8位の要因となった、といえる。つまり城西は「チーム内で強い選手が期待通りのタイムを稼げなかった」構図が、顕著に出ている。その一方で、7~10位の選手が健闘したのが光る。その合計タイムは全体で4位に当たり、順位を挽回した格好になった。上位の上武大、国士舘大は、上位1~5位の選手のタイムが速かったのが好成績につながった。こんなデータも浮かび上がる。予選における20m×10人の合計タイムを調べると、1位の上武大と8位の城西大学との差は約4分。今年の箱根駅伝の最終区間10区における1位選手と20位選手の区間タイム差は5分23秒。つまり予選会の1~8位分のタイム差は本番のレースでは、選手の調子次第で1区間だけでもひっくり返る可能性があるわけだ。城西ランナーの潜在力を考えれば、正月の箱根駅伝での上位進出は期待できる。データはそれを教えている。

女子駅伝部

関東大学女子駅伝 大会新記録で優勝



女子駅伝部は、9月25日千葉県印西市で行われた第17回関東大学女子駅伝対校選手権に出場し、1時間39分36秒の大会新記録で通算10回目の優勝を飾った。

1区の片貝洋美(薬学2)は、スタート直後からレースを引っ張った。最後まで自分のペースを守り、2位に約20秒近くの差をつけた。2区の加藤美有(経営2)は、夏の長期合宿で着実に練習をこなしてメキメキと力をつけてきた。区間2位の片貝も区間賞を逃し、3位の脇田玲加(経営2)も区間賞の走りを見せ、最終区間は、この大会で最長区間の7・8キロ。

この区間を務めたのは主将の井上藍(現代政策4)だ。唯一の4年生というプレッシャーがあったと思われたが、安定したペースで走り、2位の順天堂大学に約1分もの大差をつけ、大会記録でゴールした。

1区区間賞を獲得した片貝は、「この結果は一つの通過点として、全日本では最終的な目標である3強に入れるように頑張りたい」と話した。

この試合に気持ちを向けていた。同じく5区で区間賞の脇田は「1年ぶりの駅伝だったので緊張しましたが、1区から先頭を譲らず、2区でいい流れを作ってもらえたので楽しく走ることができました。後半のペースが落ちるなど課題があるのでもう一度優勝するのが夢だ。今後、オリンピック出場や実業団を目指す選手もいると思うが、どんな形でも走ることができてほしい」と話した。

10月23日宮城県仙台市で行われた第29回全日本大学女子駅伝(杜の都駅)で城西大学は6位入賞を果たし、関東で唯一のシード権を獲得した。気温26度と、杜の都駅伝始まって以来の気温が高かった。昨年のように1区は片貝が走り、先頭のハイペースにのまれず4位と好順位で流れを作った。2区は加藤も初の杜の都で坦々と走り、3区9・1キロの最長区間を務めた主将の井上は、後半粘り、前を行く松山大学に追いつく力走を見せた。4区脇田もシード権争い5・7位の集団についていき、5区橋本につないだ。5区は最長4・0キロだがアップダウンが激しいコース。しかし、橋本

箱根駅伝への出場権を獲得した男子駅伝部の皆さん、本当におめでとうござります。今年の第87回箱根駅伝において3秒差でシード権を逃してしまったり、ということもあり、メディアなどで注目されていた城西大学。テレビ番組でも特集が組まれた。そうした特集や報道に接した視聴者から「それぞれの思いを胸に一生涯懸命頑張る選手をみて応援したくなった」というメッセージが寄せられ、私は嬉しく思った。今まで城西大学にあまり関心を持たなかった人々も、期待を寄せて応援しているのだ。多くの人が応援してくれているということは、選手たちにとって大きな力になるだろう。「Jスポ」は、正月の箱根駅伝に向けて、昨年引き続き駅伝特集号を出す予定だ。「Jスポ」取材陣は、学生、教職員、同窓生らの応援の力を結集させ、選手らの励みとなる記事を掲載していきたいと思う。

他の部活動でも活躍している部がたくさんある。城西大学がスポーツを通して全国に知られていくことを楽しみにしている。

【安富英里香】



▲目立った城西の黄色いユニフォーム



▲Bチームも活躍

2区加藤から3区橋本へ

記録	記録	記録
1区 4.6 ⁺ 片貝洋美 14分58秒、区間賞 (薬学2、群馬・常盤高)	2区 4.5 ⁺ 加藤美有 13分59秒、区間新記録 (経営2、宮城・東北高)	3区 3.3 ⁺ 橋本奈海 10分57秒 (経営2、石川・遊学館高)
4区 5.8 ⁺ 後藤百絵 18分49秒 (経営2、静岡・三島北高)	5区 4.6 ⁺ 脇田玲加 15分33秒、区間賞 (経営2、広島・鈴峯女子高)	6区 7.8 ⁺ 井上 藍 25分20秒 (現代政策4、静岡・常葉菊川高)

() カッコ内は学部学年、出身高

■成績
第1位 1時間39分36秒

■メンバー

1区 5.8 ⁺ 片貝洋美 (薬学2)	2区 6.8 ⁺ 加藤美有 (経営2)
3区 9.1 ⁺ 井上 藍 (現代政策4)	4区 4.9 ⁺ 脇田玲加 (経営2)
5区 4.0 ⁺ 橋本奈海 (経営2)	6区 8.0 ⁺ 小坂明菜 (経営3)

かつて、本田技研工業(株)の実業団選手として活躍した。1992年、全日本実業団ハーフマラソン(山口)で1時間2分18秒の日本最高記録を樹立。2年後、東京国際マラソン(東京)に出場。初マラソンで2時間13分

27秒の好タイムを記録し、8位入賞、新人賞を獲得した。Honda黄金期の主力選手として、トラック五千円からハーフマラソンとオールマイティにこなしていた。95年に城西大学女子駅伝部コーチ、98年監督に



鈴木尚人 監督

夢は3回目の全国制覇

就任した。関東大学駅伝で優勝、全日本は最低でも5位以内という成績を収めてきた。現在ホクレン所属のママさんランナー・赤羽有紀子選手を、世界で戦えるトップランナーに成長させた。全国大会での目標は、3位入賞。「立命館大学、佛教大学、名城大学につ

千葉県大学野球秋季1部リーグ 悲願の初優勝

城西国際大学硬式野球部は、10月16日に行われた千葉県大学野球秋季1部リーグで延長10回の熱戦の末、千葉工大に勝利した。創部20年目となる節目の年に、悲願の初優勝だ。全試合を終えて勝ち点4で城西国際大、武蔵大、中央学院、大が並んだが、勝率で上回ったが、三遊間にヒ

優勝を決め部員に胴上げされる佐藤清監督

取材スタッフ

編集長	経営学部4年	千葉 史典
副編集長	経営学部3年	原 駿介
	経営学部4年	安富英里香
	経営学部3年	寺田 登
	経営学部3年	翁 優紀
	経営学部3年	恩田 香里
	現代政策学部3年	王 玉珏
	現代政策学部3年	張 夢堯
	経営学部2年	久村 洋介
	経営学部1年	齊木ひろみ

監修・アドバイザー

学 長	草野 素雄
経営学部准教授	土江 寛裕
経営学部助教	山口理恵子

記者募集

記事を書いてみませんか。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、留学生も大歓迎です。写真、イラスト、漫画などで協力してくれる学生、新入生もぜひ参加してください。連絡はこちらまで。 josaisports@josai.ac.jp